

歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

卒業生の進路状況

国公立大学進学者、大幅に増加

2021/3/17現在

	進 学							就 職				その他	合計		
	4年制大学		短期大学		専修 各種	専攻 科	その他	計	民間企業		公務員			計	
	国公立	私立	国公立	私立					県内	県外	県内				県外
普通科	13	9	4	3	7	1	37	1		1	1	3	0	40	
総合ビジネス科	8	5		1	21	1	36	20	7	3	1	31	1	68	
工業技術科	1	3		1	12	5	25	12	20		2	34	0	59	
合計	22	17	4	5	40	7	98	33	27	4	4	68	0	167	
		39		9					60		8				

単位:人

今年の卒業生の進路状況を3月17日現在でまとめました。全体として、よく努力し、その努力を結果に結びつけた学年だったと思います。

進学と就職の割合は、進学が58.7%、就職が40.7%となって、昨年度とほぼ同じ割合となっています。注目するところは、比較的入学するのが難しいといわれる国公立大学への進学者が22名となったということで、入学定員が減った学年ではありましたが、過去最高の人数と同じとなりました。特に、総合ビジネス科から8人の国公立大学進学者が出たことは、努力をすればどの学科からも国公立大学進学が可能であることを証明してくれました。

また、就職で注目すべき点は、公務員になる人が8人となったことです。公務員採用試験は問題形式が独特であり、過去にどのような問題が出題されているかを分析した上で、自学で、筆記試験の対策をしながら、適正試験の問題を素早く正確に解く練習をくり返すなど、普段の学校の勉強とは違う準備を自分で進めていく必要があります。合格した人の中には新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校期間中に集中的に公務員採用試験対策をして、合格を複数獲得した人もいました。

在校生の皆さんも、卒業生が示してくれた「学業の努力は裏切らない」ということを励みに、自らの進路志望達成に向かって欲しいと思います。

新2年生へ

勝負を決める1年の始まり

希望進路に到達するか否かを最も大きく左右するのが2年生の1年間です。3年生の夏休みには進路達成のための準備が始まりますから、普段の授業を大切にしながら自分の進路に合わせた勉強にも少しずつ取りかかることです。この1年が将来を決めます。

新3年生へ

進路を決める時が来ます

3年生の1学期が終わると進路決定のための活動が本格的に始まります。1学期は部活動や行事で忙しいと思いますが、中でも進路のことを意識しながら毎日をご過ごしてください。「もう本番直前にいる。」この意識が進路志望達成のカギです。

企業情報
揃ってます



大学や専門学校などの情報を得る手段の一つはその学校が発行しているパンフレットですが、就職する企業を選ぶ際に情報が欲しい時はどうしますか。実は企業も求職者向けのパンフレットを作っています。このパンフレットを見ることで、企業の様子を詳しく知ることができます。

進路指導室には企業が発行したパンフレットが企業別にファイルされています。主にこれまでの卒業生が就職した県内企業約60社、県外企業80社のファイルが揃えられていて、このファイルを見ることで、自分が目指す企業の全体像、作っている製品、社員の皆さんの働く様子などを把握することができます。進路指導室に来てぜひファイルを開けてみてください。

大学入学共通テストの総括

今後の学習へのヒント



去る1月16日（土）と17日（日）に初めての大学入学共通テストが実施され、本校からも27名が受験しました。初めて実施されたテストであり、試行調査で出題に関する一定の情報はありませんでしたが、本番までどのような問題が出題されるのかは完全には分からなかったため、非常に注目度の高い試験となりました。今回のテストに関しては各予備校等で分析が行われていますが、その中からZ会「ミライ研究室」に掲載されている分析及び今後の学習の指針の一部を転載します。

全体を通して

- 読み取るべき資料等の分量が増加した。
- 複数の資料から適切に情報を読み取り、その情報を活用し、他の資料や教科書での学習内容とを結びつけて考察する力がこれまで以上に問われるようになった

点が大きな特徴といえます。

英語（リーディング・リスニング）

最も変化が大きかった科目といえます。英文の分量が大幅に増加。分量増加に備えた対策をどれだけ積んでいたかが、カギとなりました。リスニングも、英文の読み上げが1回しかない出題もあり、次年度以後も、リスニングについては早期から十分な対策が必要になることは間違いありません。

数学

センター試験より解答時間が10分伸び、単なる数値を求める問題だけでなく、「具体的な実社会での設定がなされそれに対して数学を適用し解釈をしていく問題」「複数の登場人物が会話をしておりその人物の考えを踏まえて解答していく問題」など、これまでのセンター試験ではあまり見受けられない問題が多数出題されました。

国語

すべての大問で、「問題文とは別の文章・資料を参照して解答する問題」や「問題文で与えられている複数の文章を総合的に考えて解答する問題」が出題されました。理解した内容を整理し、他の文章や資料を理解するために活用していく読解力も求められるようになりました。

理科、地理歴史・公民

試行調査の出題方針をベースに、科目によってその反映度合いにはばらつきがありました。地理歴史では、資料読解の負担が増加したのは試行調査通りですが、他方で、読解した内容だけではなく、正解の判断には正確な知識も求められました。共通テストの出題方針は、決して知識を軽視しているわけではない、という点には注意が必要です。

出典：Z会ホームページ「ミライ研究室」

「今後の学習の指針」としてZ会では次の3点をあげています。参考にしてください。

1. さまざまなタイプの出題に備えた十分な対策が必須！

これから数年間は、出題方針の微調整や試行錯誤が続くとみて間違いないでしょう。今年度の出題だけでなく、試行調査での出題にも目配りしつつ、出題が予想されるさまざまなタイプの問題演習に、バランスよく取り組んでおくことは必須です。

2. 基礎知識の習得も確実に！

「読解力」という側面にばかり気を取られて、基礎知識の習得がおろそかになることも、要注意です。知識の正確な理解と定着は、これからも変わらず重要です。

3. 早期から「入試を見据えた学習」を！

科目数も多い共通テスト対策を着実に進めるためには、高1高2の段階から、計画的に学習を進めることが大事です。また、全科目で求められる文章の読解力や、共通テストになって大きく配点の比重が上がった英語のリスニングなどは、短期間での対策が難しいです。「受験生になってから」ではなく、早期から対策に着手しましょう。学校の授業だけでなく、入試を見据えた学習にも少しずつでも取り組んでおくことが、必須です。

出典：Z会ホームページ「ミライ研究室」